

整形外科診療におけるエコー入門 —さあ使ってみよう超音波—

整形外科診療にとり、超音波診断装置は不可欠なものになりつつありますが、これから導入をお考えの先生も多いと思います。また、先生方の中には、診察室に超音波診断装置が置かれているが、何となく使いそびれて宝の持ち腐れ状態になっている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。本特集は、そのような先生方が超音波診療を始めるにあたり、疑問に思われていることを解決するために企画いたしました。

私は足の外科を専門といたしておりますが、足は皮下組織が薄く、触診で神経や靱帯の同定は比較的容易にできます。私も始めたころは触診で確かめながら超音波診断を行っておりました。しかし、プローブを当てるだけで解剖学的な構造がすぐに同定できるようになるまでに、それほど多くの時間はかかりませんでした。まずはプローブに触れてみるのが重要で、いきなり診察で使うのが不安であれば、超音波は非侵襲ですのでご自身の体を使ってトレーニングすることをお勧めいたします。プローブ操作で見え方が変わることには気づかれると思いますが、ご自身が手術などで培った解剖学的知識を用いて、どのような像にするのが最もわかりやすいか、すぐにわかるようになると思います。

本特集では、まずは機種を選定など超音波診断装置を導入するための基礎知識や導入の実際について記載いただき、その次に関節穿刺や神経ブロック、今話題のハイドロリリースなど、基本的なテクニックについて述べていただきました。また、後半では部位別や疾患別のテクニックを詳解していただいております。各項目は具体的に、かつ懇切丁寧に記載されており、すぐにでも先生方の診療のお役に立てる知識と手技が満載されております。

世界的にみても運動器超音波診療を整形外科医が自ら行っている国は少なく、この分野は日本の整形外科医が日常診療を行いながらも、自らのアイディアを海外に向けて発信することができる領域であると思います。本特集がきっかけになり超音波診療を始められ、知的好奇心をもって奥深い超音波の世界を探索していただくことができれば、企画した者にとりこれ以上の喜びはありません。

(田中康仁)